

# 和歌・短歌について調べる

## 目次

- 1 図書を調べる
  - (1) 「和歌・短歌」全般について知る
  - (2) 作品について知る
    - ア. 特定の作品について知る
    - イ. どのような作品があるか知る
  - (3) 歌人について知る
- 2 雑誌を調べる
- 3 インターネット・データベースを調べる

中国の漢詩に対する和歌(やまとうた)として、古くから詠まれてきた和歌。特に明治時代以降は「短歌」として親しまれ、今もなお身近な存在です。

時代を経ても変わらないものから、世相を反映した、時代ならではのものまで、多種多様な心の動きが三十一文字に込められています。

キーワード例：

短歌／和歌／名句／句集／歌集／歌枕／三十一文字／自由律短歌／近代短歌／短歌結社／同人誌／歌人名(正岡子規、与謝野晶子)など

### アイコンの説明



参考図書



図書



インターネット情報



オンラインデータベース  
(図書館内でのみ利用可)

## 1 図書を調べる

### (1) 「和歌・短歌」全般について知る

短歌と俳句との違いとは何か、短歌にまつわる用語についてなど、事前に基本的な知識を得ておくことで調べものがスムーズにいく場合があります。また手掛かりとなるキーワードが見つかるなど、調べものに役立つ情報が得られます。



『世界大百科事典』全34巻(平凡社 2005)

見出し語約9万、総索引項目40万を越す百科事典。各分野の情報を網羅するだけでなく、図版も豊富に収録されている。後述のデータベース《ジャパンナレッジLib》にも収録されている。



『和歌文学大辞典』(伊藤嘉夫[ほか]編 窪田空穂[ほか]監修 明治書院 1962)

古代から昭和30年代前半までの和歌に関する総合的な辞典。巻末に総合索引、難訓索引、文献目録、歌碑現在目録などがある。



『岩波現代短歌辞典 デスク版』（三枝昂之 [ほか] 編 岡井隆監修 岩波書店 1999）  
短歌に固有な「歌語」1,329語と、近現代短歌において重要な事項530を、秀歌を鑑賞しつつ解説する。索引のほかに年表が付属しており、時代の流れとともに概観できる。

## （2）作品について知る

特定の和歌について調べたい場合には、「ア. 特定の作品について知る」にあるような索引から引ける参考図書が活用できます。

一方、どういった作品があるのか概観したい場合には、「イ. どのような作品があるか知る」のような句集や集成から探すとよいでしょう。作者ごと、歌集ごとのほか、「生活」「恋愛」などといったテーマごとにまとめられている資料もあります。

### ア. 特定の作品について知る



『新編国歌大観』全10巻（「新編国歌大観」編集委員会編 角川書店 1983-1992）  
勅撰集・私撰集・私家集など1162集、約45万首が収録されている。作品の作者を調べたり、出典を探したりすることができる索引。



『典拠検索新名歌辞典』（中村薫編 明治書院 2007）  
奈良時代から江戸時代にいたる約8,000首の名歌・伝承歌の出典、引用書を収録する、和歌の文化史辞典。

### イ. どのような作品があるか知る



『日本うたことば表現辞典』全15巻（日本うたことば表現辞典刊行会編 大岡信監修 遊子館 1997-2010）  
古代から現代までの詩歌をテーマ別、表現手法別にまとめた辞典。生活編・枕詞編・掛詞編などがある。各巻の索引の他に、1-7巻までの総索引が7巻に収録されている。



『角川現代短歌集成』全4巻+別巻（秋葉四郎 [ほか] 編 岡野弘彦 [ほか] 監修 角川学芸出版 2009）  
昭和29年から現在までの約3万首を収録しており、1,678名の歌人名、19,000語の語彙から引くことができる。

## （3）歌人について知る

その短歌を作ったのはどのような人物なのか、また、他にどのような歌を作っているのかという情報を知りたい場合には、歌人について索引のある資料を用いて調べるとよいでしょう。



『日本歌人講座』全8巻+別巻（久松潜一，実方清編 弘文堂 1970-1974）  
 上古から近代まで、時代別に代表的な歌人62人を収録する。別巻は歌人総覧・総索引となっており、さらに255人の歌人について概説が載っている。



『戦後詩歌俳句人名事典』（日外アソシエーツ株式会社編 日外アソシエーツ 2015）  
 詩・俳句・短歌・川柳・漢詩などの分野で戦後に活躍した4,501人の詩歌人を収録する人名事典。50音順の他に、没年順人名一覧、都道府県別索引付き。

## 2 雑誌を調べる

次に短歌に関する雑誌を調べてみましょう。県立図書館で所蔵している雑誌をご紹介します。資料保存のため、刊行後2年を過ぎた雑誌は貸出できませんが、館内での閲覧と著作権法の範囲内でのコピーは可能です。



『短歌研究』（短歌研究社）1946年4月一継続受入中。  
 1932年創刊の月刊短歌総合誌。新人賞には「短歌研究新人賞」があり、改称前の「短歌研究50首詠」では寺山修司などが受賞している。



『短歌』（KADOKAWA）1960年1月一継続受入中。  
 1954年創刊の「短歌」を専門的に扱う月刊総合雑誌。主催する新人賞に「角川短歌賞」があり、歴代受賞者には穂村弘や俵万智などがいる。



『歌壇』（本阿弥書店）1987年7月-2005年11月号所蔵。  
 1987年創刊の月刊短歌総合誌。作家研究や連載、インタビューなども掲載する。新人賞に「歌壇賞」がある。



『アララギ 復刻版』（教育出版センター）1巻1号（明治41年10月）-55巻12号（昭和37年12月）所蔵。  
 正岡子規門下の伊藤左千夫や斎藤茂吉の所属した短歌会の短歌結社誌。1908年に創刊した『阿羅々木』がその翌年創刊の『比牟呂』と合併し『アララギ』に改題した。



『新アララギ』（新アララギ発行所）1998年1月号創刊号一継続受入中。  
 1997年に終刊した『アララギ』の後継誌。





### 3 インターネット・データベースを調べる

和歌・短歌や歌人について調べる際に役立つウェブサイト、データベースを紹介いたします。



《和歌データベース》(<https://lapis.nichibun.ac.jp/waka/menu.html> 国際日本文化研究センター)

作品集の成立年順や作者名順、作品集名順に和歌を調べられるほか、語句検索が可能なデータベース。



《万葉百科 万葉集関連情報検索システム》(<https://manyo-hyakka.pref.nara.jp/> 奈良県立万葉文化館)

万葉集に関する情報を集めたデータベース。奈良県立万葉文化館所蔵資料の情報や、全国の歌碑についても収録されている。キーワード検索のほかに、歌番号検索などの詳細検索ができる。



《近代短歌データベース》(<http://kindaitankadatabase.com/>)

近代短歌の全文検索が可能なデータベース。検索結果から「次世代デジタルライブラリー」に移動し、さらに検索することが可能。



《国立国会図書館サーチ》(<http://iss.ndl.go.jp/> 国立国会図書館)

国立国会図書館の所蔵資料をはじめ、全国の公共図書館、公文書館、美術館や学術研究機関等が所蔵する資料を検索できる。



《Webcat Plus》(<http://webcatplus.nii.ac.jp/> 国立情報学研究所)

江戸期前から現代までに出版された書物に関する情報を、全国の大学図書館や国立国会図書館の所蔵目録など、様々な情報源を統合して提供しているウェブサイト。文章から連想する「連想検索」や、キーワードから検索する「一致検索」で検索できる。



《C i N i i R e s e a r c h》(<https://cir.nii.ac.jp/> 国立情報学研究所)

文献や研究データ、プロジェクト情報を横断的に検索できるウェブサイト。インターネット上で公開されている論文であれば、閲覧できる機関等へのリンクも掲載されている。



《ジャパンナレッジLib》(ネットアドバンス)

ネットアドバンス社が提供する辞書・事典のデータベース。70以上の百科事典や国語辞典、語学辞書、人名辞典など、多彩なコンテンツを一括して検索することができる。

※埼玉県立図書館をはじめ、契約している図書館でご利用できます。

※県立熊谷図書館・浦和分室では職員が代行検索を行います。

